

日本経済新聞

鈴木産業

けい藻土使い建材

カビ・ダニ防止、全国発売へ

建材商社の鈴木産業(旭川市、鈴木徳雄社長)は道北で産出するけい藻土を使った内装壁装材「豊ヘルス」を道立工業試験場と共同開発し、発売した。多孔質で吸・放湿性に富み、室内の

湿度を快適な範囲に保つので、結露やカビ、ダニの発生を防ぐという。道内を皮切りに順次、販売地区を全国に広げる方針。

この建材は一枚の大きさが横二十一・八センチ、縦が六・二センチまたは十・四センチ、厚さが一センチまたは一・五センチ。原料の処理によって顆粒(かりゅう)タイプとコルク状模様の二種類がある。木材と違って燃えず、腐敗しないうえ、機能も半永久的に持続するという。湿

度調整などのためには、内壁のすべてに施工する必要はなく、部屋の容積の一三〇％に当たる数字が施工面積の目安。価格は一平方メートル当たり三万一千六千四百円。

同社はけい藻土の産出する宗谷管内豊富町に、研究所兼プラントを設けており、ここで生産する。現在は年産で約五千トンの規模。来月から東北でも販売に乗り出し、年内には関東にまで広げる計画。今年後半で四千万円の売り上げを

見込んでいる。

けい藻土は単細胞藻類であるけい藻の死骸(しがい)がたい積したものだ。石川県では関連メーカーなどが、地元で産出するけい藻土を使い建材などの研究開発に乗り出している。

旭川市内に新駅

JR北海道

北海道旅客鉄道(JR北海道)は九月一日、旭川市内に新駅を開設する。JR富良野線の神楽岡駅(旭川市)と西御料駅(同)の間に位置し、名称は「緑が丘駅」。付近で宅地造成が進んでおり、人口が増加。住民から新駅設置の要望が出ていた。